

Gentran:Server[®] for Windows[®]

ODBC ユーザー ガイド バージョン 5.0

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われません。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

本書について

- ▶ 概要 iv
- ▶ 始める前に v
- ▶ サポート情報 vi

Gentran:Server での ODBC の概要

- ▶ 概要 1-2
- ▶ Gentran:Server での ODBC の概要 1-3
- ▶ ODBC マップ オブジェクト 1-4

Gentran:Server と ODBC の使用

基本操作 2-2

- ▶ 概要 2-2
- ▶ ODBC マップの作成方法 2-3
- ▶ ODBC マッピングに関する注意事項 2-8
- ▶ マップをインポートする追加手順 2-9
- ▶ データベース フィールドの生成方法 2-11
- ▶ テストから本番への移行方法 (ODBC DSN) 2-13

ODBC マップ オブジェクトの操作 2-14

- ▶ 概要: マップ オブジェクトの作成方法 2-14
- ▶ ODBC ファイル形式の使用法 2-16
- ▶ グループの使用法 2-22
- ▶ ステートメント レコードの使用法 2-26
- ▶ カーソル操作レコードの使用法 2-30
- ▶ 入力レコードの使用法 2-33
- ▶ 出力レコードの使用法 2-39
- ▶ フィールドの使用法 2-46

データベースの整合性チェック 2-53

- ▶ データベースの整合性をチェックする方法 2-53

ODBC マップ作成のガイドライン

- ▶ はじめに A-2
- ▶ テスト環境から本番環境へ移行する際のヒント A-3
- ▶ インバウンド マッピングのヒント A-4
- ▶ アウトバウンド マッピングのヒント A-5



本書について

目次

▶ 概要	iv
▶ 始める前に	v
▶ サポート情報	vi

概要

はじめに

Gentran:Server[®] for Windows[®] を使用すると、ODBC (Open Database Connectivity) ドキュメントを従来の電子商取引メッセージと同様の方法と一緒に管理することができます。その結果、受信および送信のデータ形式 (ODBC、XML、proprietary message formats など) がどの形式であるかにかかわらず、同じ処理とデータ管理の環境を維持することができますようになります。

このマニュアルは、Gentran:Server for Windows での ODBC の使用方法、および Gentran:Server での各種タスクの実行について説明しています。タスクの手順を解説しているこのマニュアルは、Gentran:Server に関するあらゆる質問に答えることを目的として書かれています。

メモ

このマニュアルには、ODBC に関する説明や定義は記載されていません。

参照

ODBC の詳細については、msdn.microsoft.com の Web サイトにアクセスするか、または ODBC Programming Reference マニュアルのリンクに従ってください。

本書の構成

この『ODBC ユーザーガイド』は、次の章から構成されています。各章の概要を説明します。

- ▶ 「本書について」では、このマニュアルの内容および構成について説明します。この章では、カスタマサポートの情報についても説明しています。
 - ▶ 第1章「Gentran:Server での ODBC の概要」は、Gentran:Server for Windows での ODBC の導入方法を説明します。
 - ▶ 第2章「Gentran:Server と ODBC の使用」は、Gentran:Server で ODBC を使用開始するために完了する必要があるタスク、および ODBC マップ コンポーネントの操作方法について説明します。
 - ▶ 付録 A 「ODBC マップ作成のガイドライン」は、特定の ODBC マップのトラブルシューティングの方法について説明します。
-

始める前に

前提知識

このマニュアルの前提知識として、次の知識が必要です。

- ▶ Gentran:Server for Windows
- ▶ Windows
- ▶ ODBC

前提条件

Gentran:Server で ODBC を使用するには、次のソフトウェアが必要です。

- ▶ Gentran:Server for Windows バージョン 5.0 がインストールされている必要があります。
- ▶ ODBC 対応のデータベースがインストールされている必要があります。

メモ

Gentran:Server に対応しているデータベースのバージョンに関する詳細な情報は、『インストール準備 カード』を参照してください。

- ▶ 使用しているデータベース用にインストールした ODBC ドライバの最新バージョンが必要です。

メモ

Gentran:Server に対応している最新の ODBC ドライバおよびその他のソフトウェアに関する詳細な情報は、『インストール準備 カード』を参照してください。

サポート情報

はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

サポートに 連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願いします。

- まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービス パック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティングシステムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベース バージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。 ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。 (次のページへ続く)

情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

スターリング コマース社 Support Web Site (英語) へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、「インストール準備 カード」を参照してください。

マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows ドキュメント セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。

Gentran:Server での ODBC の概要

目次

▶ 概要	2
▶ Gentran:Server での ODBC の概要	3
▶ ODBC マップ オブジェクト	4

概要

はじめに

この章では、Gentran:Server での ODBC の使用について紹介し、Gentran:Server の新しい特徴と機能についても説明します。

ODBC を使用する理由

オープン データベース コネクティビティ (ODBC: Open Database Connectivity) を使用すると、トランスレーションの際に複数のデータベースを照会または更新できるように、複数のデータ ソースを指定することができます。データベーススキーマからマップを直接作成することにより時間を節約でき、使用しているマップがデータベースの最新バージョンと確実に同期するようになります。

Gentran:Server での ODBC の概要

概要

Gentran:Server では以下の機能を実行できます。

- ▶ 1つのトランスレーションセッション内で、複数のデータベースに対してデータの照会またはデータの更新を行うため使用するデータソースを指定します。
- ▶ データソースを追加してから接続をテストし、接続文字列を編集します。
- ▶ テーブルと列のリストなど、データベーススキーマのモデルを表示します。
- ▶ データベーススキーマからフィールドを直接生成します。
- ▶ データベースの整合性をチェックします。

メモ

- ▶ ODBC シンタックスをマップの両側で使用する場合、各側で個別のデータソースセットが使用されます。マップの一方の側が、他方の側に属するデータソースを参照することはできません。
- ▶ ODBC 機能をほかの種類マップに挿入することはできません。
- ▶ ODBC Output Record を使用する ODBC マップで、Microsoft データベース (Access または MSSQL Server) に対してトランスレーションを実行しているマップについては、ODBC DSN 設定で [Use ANSI Quoted Identifiers] オプションをオン (有効) にする必要があります。

タイムスタンプの情報

Gentran:Server は、使用しているデータベース管理システムの種類に関わらず、タイムスタンプなしで Gentran データベースに書き込まれたすべての日付の終わりに 00:00:00.000 のタイムスタンプを設定します。

ODBC マップ オブジェクト

はじめに

Gentran:Server は ODBC マップ オブジェクトを表すために、アイコンのセットを使用します。

マップオブジェクト アイコン

次の表に、Gentran:Server が ODBC ファイルを可視表示するため使用するマップオブジェクト アイコンをまとめます。

アイコン	説明
	[ODBC ファイル書式] アイコンには、ルート エレメントなど、Gentran:Server がトランスレーションの際に使用する ODBC データソースが含まれます。これは、グループ データが終了するか、ループの繰り返しに許可される最大回数が終了するまで逐次繰り返されるグループ、SQL ステートメント、カーソル操作、および入出力レコードから成るループ構造です。
	[グループ] は、グループ データが終了するか、ループの繰り返しに許可される最大回数が終了するまで逐次繰り返される関連しているグループ、ステートメント レコード、カーソル操作、および入出力レコードから成るループ構造です。
	[ステートメント レコード] は SQL のユニットを表します。これには、SQL クエリー (結果セットを返す場合と返さない場合がある)、コマンド (結果セットを返さない)、またはストアードプロシージャの呼び出し (結果セットを返す場合と返さない場合がある) が含まれます。
	[カーソル操作レコード] には、クエリーから返された結果セット内の新しいレコードに移動する際のトランスレータへの指示が含まれます。各操作は、結果セットを返す 1 つのステートメントレコードに関連付けられています。カーソル操作レコードはマップの入力側でのみ許可されます。
	[入力レコード] には、出力形式にマップするための適切なフィールドの論理グループが含まれます。入力レコードはマップの入力側でのみ許可されます。
	[出力レコード] は UPDATE、INSERT、または DELETE の SQL ステートメントを表し、出力レコードにはフィールドが含まれます。出力レコードはマップの入力側と出力側の両方で作成可能です。

(次のページへ続く)

(続き) アイコン	説明
	<p>[フィールド] はデータベース テーブルの列に相当し、フィールドにはその列の属性が含まれます。入力側では、フィールドはオープン SQL クエリーの現在行の列からのデータを受け取ります。出力側では、フィールドは、システムによって更新または挿入される列、あるいはキー列を表します。また、データベース テーブルまたはクエリーの結果セットとは関係のないフィールドを作成することもできます。</p>

Gentran:Server と ODBC の使用

目次

基本操作	2
▶ 概要	2
▶ ODBC マップの作成方法	3
▶ ODBC マッピングに関する注意事項	8
▶ マップをインポートする追加手順	9
▶ データベース フィールドの生成方法	11
▶ テストから本番への移行方法 (ODBC DSN)	13
ODBC マップ オブジェクトの操作	14
▶ 概要: マップ オブジェクトの作成方法	14
▶ ODBC ファイル形式の使用法	16
▶ グループの使用法	22
▶ ステートメント レコードの使用法	26
▶ カーソル操作レコードの使用法	30
▶ 入力レコードの使用法	33
▶ 出力レコードの使用法	39
▶ フィールドの使用法	46
データベースの整合性チェック	53
▶ データベースの整合性をチェックする方法	53

基本操作

概要

ODBC 処理

次の表に、Gentran:Server で ODBC を使用する際の処理をまとめます。

段階	説明
1	<p>使用しているシステム内のすべてのコンピュータに Gentran:Server をインストールします。</p> <p>参照 詳細については、『Gentran:Server Installation Guide』を参照してください。</p>
2	<p>ODBC ドキュメントをトランスレーションするためのマップを作成します。</p> <p>参照 詳細については、「ODBC マップの作成方法」を参照してください。</p>
3	<p>必要に応じて、マップの INPUT 側と OUTPUT 側を次の順序でビルドします。</p> <p>a. データソースを追加し、接続をテストします。</p> <p>参照 詳細については、「ODBC ファイル形式の使用法」を参照してください。</p> <p>b. 必要に応じて、ODBC フィールド ジェネレータを使って、データベースフィールドを生成します。</p> <p>参照 詳細については、「データベースの整合性をチェックする方法」を参照してください。</p> <p>c. 必要に応じて、マップオブジェクトを手動で作成します。</p> <p>参照 詳細については、「ODBC マップオブジェクトの操作」を参照してください。</p> <p>d. データベースの整合性を確認します。</p> <p>参照 詳細については、「データベースの整合性をチェックする方法」を参照してください。</p>

ODBC マップの作成方法

はじめに

[新規マップ ウィザード] を使用すると、素早く簡単に入力ファイルと出力ファイルの形式を選択して、マップを作成できます。

メモ

ODBC シンタックスをマップの両側で使用する場合、各側で個別のデータソースセットが使用され、マップの一方の側が、他方の側に属するデータソースを参照することはできません。

手順

ODBC マップを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート] メニューから、[プログラム] > [Gentran Server] > [アプリケーション インテグレーション] を選択します。</p> <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーション サブシステムが表示されます。</p>
2	<p>アプリケーション インテグレーションの [ファイル] メニューから、[新規作成] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード] が表示されます。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
3	次の各項目を指定し、[次へ] を選択します。 ▶ 作成しているマップの種類を指定してください。 次の表に選択肢を示します。	
	各部	機能
	インポート	アウトバウンド マップに使用します。
	エクスポート	インバウンド マップに使用します。
	インターチェンジ ブレイク	インターチェンジを分離するために詳細 マッピングで使用します。
	ファンクショナル 受信確認 インバウンド	ファンクショナル受信確認の整合性を取る ために詳細マッピングで使用します。
	ファンクショナル 受信確認 アウトバウンド	ファンクショナル受信確認を生成するた めに詳細マッピングで使用します。
	システム インポート ヘッダー	アプリケーション ファイル内の各ドキュメ ントに対応する取引関係 (パートナー エ ディタで確立) を識別するために使用しま す。これにより、ドキュメントの処理にど のインポート トランスレーション オブジェ クトを使用するかが識別されます。
	ターンアラウンド	EDI 対 EDI のマップに使用します。
	トランザクション ビルド	トランザクション エンベロープを作成する ために詳細マッピングで使用します。
	トランザクション ブレイク	ドキュメントを分離するために詳細マッピ ングで使用します。
	ファンクショナル グループ ビルド	ファンクショナル グループ エンベロープ を作成するために詳細マッピングで使用し ます。
	ファンクショナル グループ ブレイク	ファンクショナル グループを分離するた めに詳細マッピングで使用します。
	インターチェンジ ビルド	インターチェンジ エンベロープを作成する ために詳細マッピングで使用します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作					
<p>3 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ マップの名前を指定します。 マップの一意の名前を入力します。 .MAP 拡張子が付きます。 ▶ ユーザーの名前を指定します。 表示されたユーザー名が正しくない場合は、自分のユーザー名を入力します。 <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 入力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ マップの入力側の形式を指定する必要があります。これは、Gentran:Server システムによってトランスレーションされるデータの形式です。</p>					
<p>4</p>	<p>マップの入力側 : ユーザー定義のシンタックスを使用した新しいデータ形式を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、次の入力形式オプションから 1 つ選択し、[次へ] をクリックして、ステップ 5 に進みます。 [Delimited EDI] (Electronic Data Interchange ファイル) [Positional] (アプリケーション ファイル) [XML] (Extensible Markup Language) [ODBC] (オープン データベース コネクティビティ) [CII] (日本固有の標準) [CII Positional] (CII ビルド / ブレーク マップ用) <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成しない場合は (保存済みの定義からデータ形式を読み込む場合)、[保存されている定義からデータ形式を読み込む] オプションを選択し、保存済み定義のパスとファイル名を入力します (または、[参照] をクリックして [ファイルの定義を開く] ダイアログ ボックスを表示します)。ステップ 6 に進みます。 					
<p>5</p>	<p>表示されるダイアログ ボックスに応じたステップを実行し、ステップ 6 に進みます。</p> <table border="1" data-bbox="603 1617 1407 1841"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 1617 874 1706">表示される ダイアログ ボックス</th> <th data-bbox="874 1617 1407 1706">実行する手順</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 1706 874 1841">新規マップ ウィザード - 出力書式</td> <td data-bbox="874 1706 1407 1841">ステップ 7 に進みます。 (次のページへ続く)</td> </tr> </tbody> </table>		表示される ダイアログ ボックス	実行する手順	新規マップ ウィザード - 出力書式	ステップ 7 に進みます。 (次のページへ続く)
表示される ダイアログ ボックス	実行する手順					
新規マップ ウィザード - 出力書式	ステップ 7 に進みます。 (次のページへ続く)					

(続き) ステップ	操作
6	<p>保存済みの定義からデータ形式を読み込むように選択し、[参照] をクリックして [ファイルの定義を開く] ダイアログ ボックスを表示したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示した場合は、ファイル名を入力して [開く] をクリックし、選択したファイル形式定義を読み込み、ステップ 8 に進みます。 <p>メモ 以上で、.DDF または .IFD ファイルを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示しなかった場合は、ステップ 7 に進みます。 <p>メモ DDF が無効な場合は、問題について説明するメッセージ ボックスが表示され、インポートが終了します。</p>
7	<p>マップの出力側 : ユーザー定義のシンタックスを使用した新しいデータ形式を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、次の出力形式オプションから 1 つ選択し、[次へ] をクリックして、ステップ 8 に進みます。 [Delimited EDI] (Electronic Data Interchange ファイル) [Positional] (アプリケーション ファイル) [XML] (Extensible Markup Language) [ODBC] (オープン データベース コネクティビティ) [CII] (日本固有の標準) [CII Positional] (CII ビルド / ブレーク マップ用) ▶ 作成しない場合は (保存済みの定義からデータ形式を読み込む場合)、[保存されている定義からデータ形式を読み込む] オプションを選択し、保存済み定義のパスとファイル名を入力します (または、[参照] をクリックして [ファイルの定義を開く] ダイアログ ボックスを表示します)。ステップ 8 に進みます。
8	<p>保存済みの定義からデータ形式を読み込むように選択し、[参照] をクリックして [ファイルの定義を開く] ダイアログ ボックスを表示したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示した場合は、ファイル名を入力して [開く] をクリックし、選択したファイル形式定義を読み込み、ステップ 11 に進みます。 <p>メモ 以上で、.DDF または .IFD ファイルを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示しなかった場合は、ステップ 9 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>[完了]をクリックして、マップの編集を始めます (2 ~ 3 秒かかる場合があります)。</p> <p>システムからの応答 新規マップが [アプリケーション インテグレーション] ウィンドウに表示されます。</p> <p>メモ 新規マップの作成と保存が終了した後、マップの入力側と出力側を定義する必要があります。</p>

ODBC マッピングに関する注意事項

インポート処理

アウトバウンド処理では、データベース テーブル内のどのレコードが処理済みであるかを判断する必要があります。つまり、マップを処理するときにテーブル内の未処理のレコードのみを選択できるように、レコードをマークすることが必要です。

レコードを処理済みまたは未処理としてマークするには、処理フラグを含む列をデータベース内に指定します。この列として、データベースに処理列を挿入するか、または、未使用の列をこの機能用に選択することができます。この列は、マップの SQL ステートメント レコード内に含める必要があります。また、データ レコードが処理されたことを示すため、この列をマップから更新する必要があります。

推奨事項

処理列をデータベースに追加、または既存の列の機能を変更する前に、テストの実行により既存のデータが上書きされないように、データを別個の作業テーブルにコピーすることをお勧めします。

エクスポート処理

Gentran:Server では、データをデータベースに直接エクスポートできます。ドキュメントを ODBC 準拠のデータベースにエクスポートするには (つまり、EDI から ODBC)、そのトランザクション セットのエクスポート トランスレーション オブジェクトを登録し、エクスポート トランスレーション オブジェクトとエクスポート ファイル名を、そのパートナーのインバウンド関係レコード内に設定する必要があります。

参照

- ドキュメントのエクスポートの詳細については、『ユーザー ガイド』の「ドキュメントのエクスポート方法」を参照してください。
- トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、『ユーザー ガイド』の「新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法」を参照してください。
- インバウンド トランスレーション オブジェクトの設定の詳細については、『ユーザー ガイド』の「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。

マップをインポートする追加手順

はじめに

多数のパートナーとのアウトバウンド処理では、ODBC インポート マップ (たとえば、ODBC から 固定長へのマップ) を作成することをお勧めします。このようにすると、このタスク用にシステム インポート マップを作成するよりも作業が容易になります。

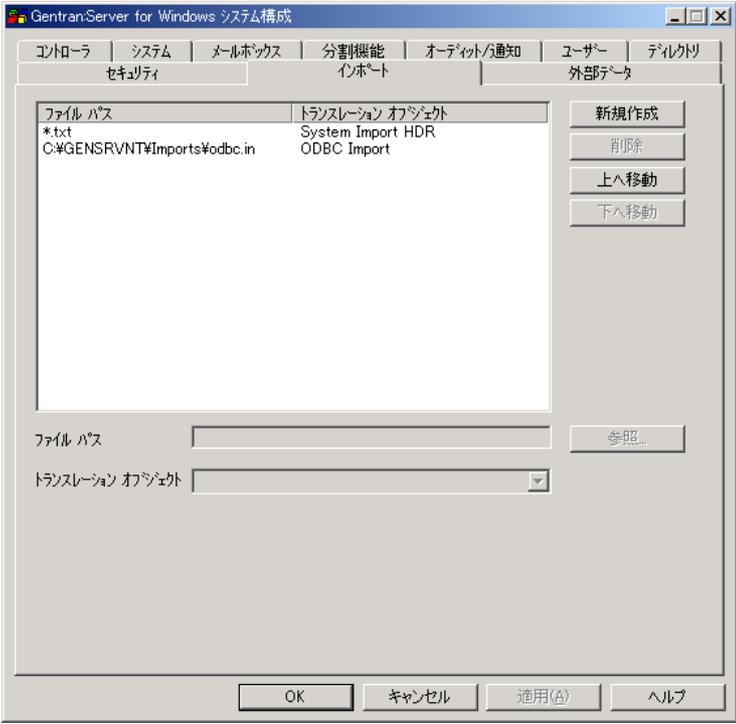
参照

ドキュメントのインポートの詳細については、『ユーザー ガイド』の「ドキュメントのインポート方法」を参照してください。

プロセス

次の表に、Gentran:Server で多数のパートナーで使用するための ODBC インポート マップを作成するプロセスの例をまとめます。

段階	説明
1	インポート マップを作成します (たとえば、「ODBC インポート」という説明の ODBC.MAP)。 参照 詳細については、「 ODBC マップの作成方法 」を参照してください。
2	マップの入力側で、パートナー情報を照合するための 3 フィールド切り替えキーを定義します (システム インポート マップを作成する場合のように)。 メモ このインポート マップは、インポート マップとシステム インポート マップ両方の機能を持つようになります。 参照 詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』の「 代用キーの定義方法 」を参照してください。
3	空のファイルを作成します (たとえば、ODBC.IN)。 メモ ダミー ファイルの作成にはテキスト エディタを使用できます。ダミー ファイルはインポート プロセスを起動するために使用されます。 (次のページへ続く)

(続き) 段階	説明
4	<p>システム構成プログラムの [インポート] タブで、コンパイル済みのトランスレーション オブジェクトをダミーファイルに関連付けます。</p> <p>メモ これにより、ダミー ファイルをシステムにインポートするとき、システム インポート マップの代わりにインポート マップが使用されるようになります。インポートの実行時に、マップで指定されているすべての ODBC トランスレーションが実行されます。</p> <p>例 この図は、上記の例の場合、システム構成の [インポート] タブがどのように表示されるかを示しています。</p>  <p>参照 詳細については、『管理 ガイド』の「新しいインポート指定の定義方法」を参照してください。</p>

データベース フィールドの生成方法

はじめに

[フィールドの生成]機能では、ウィザードを使用して、入力または出力レコードのフィールドを素早く簡単に生成できます。この機能は、レコードが入力であるか出力であるかによって少し異なります。

メモ

この機能を使用する前に、SQL クエリーをテストする必要があります。

参照

クエリーのテストの詳細については、「[ODBC ファイル形式の使用方法](#)」を参照してください。

入力レコード データベース フィールドの生成

入力レコード データベース フィールドを生成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>入力レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの生成] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC フィールド生成ウィザード : クエリーの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[照会] リストから定義済みクエリーを選択し、[次へ] をクリックします。</p> <p>メモ 結果セットを生成したクエリーのみが表示されます。</p> <p>システムからの応答 [ODBC フィールド生成ウィザード : 列の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[列] リストから希望の結果列を選択し、[完了] をクリックします。</p> <p>メモ [すべて選択] をクリックし、すべての列を選択します。[クリア] をクリックすると、すべての列が選択解除されます。</p> <p>システムからの応答 指定した結果列がレコードに追加され、すべての検証設定が自動的に生成されます。</p>

(次のページへ続く)

出力レコード
データベース
フィールドの生成

出力レコード データベース フィールドを生成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>出力レコードを右クリックし、ショートカット メニューから [フィールドの生成] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC フィールド生成ウィザード : テーブルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>出力レコードがデータ ソースに既に関連付けられているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関連付けられている場合は、ステップ 3 に進みます。 ▶ 関連付けられていない場合は、[データ ソース] リストから希望のデータ ソースを選択し、ステップ 3 に進みます。
3	<p>出力レコードがテーブルに既に関連付けられているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関連付けられている場合は、ステップ 4 に進みます。 ▶ 関連付けられていない場合は、[テーブル] リストから希望のデータベース テーブルを選択し、ステップ 4 に進みます。
4	<p>テーブル操作を選択し、[次へ] をクリックします。</p> <p>メモ 有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [挿入] ▶ [更新] ▶ [削除] <p>システムからの応答 [ODBC フィールド生成ウィザード : 列の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[列] リストから希望の結果列を選択し、[完了] をクリックします。</p> <p>メモ [すべて選択] をクリックし、すべての列を選択します。[クリア] をクリックすると、すべての列が選択解除されます。</p> <p>システムからの応答 指定した結果列がレコードに追加され、すべての検証設定が自動的に生成されます。</p>

テストから本番への移行方法 (ODBC DSN)

はじめに

システムをテストから本番へ移行する際に、ODBC データ ソース名 (DSN) がテスト用コントローラと本番用コントローラで異なる場合は、本番で使用しているマップの ODBC DSN を変更する必要があります。

本番へ移行する際の ODBC DSN の変更

テストから本番へ移行する際に ODBC データ ソース名を変更するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	テストから本番へ移行する各マップについて、ODBC ファイルのアイコンを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定の表示は [名前] タブ)。
2	[データ ソース] タブを選択して、データ ソースのオプションを表示します。
3	[DSN] ボックス (ダイアログ ボックス右側の [ODBC 接続パラメータ] セクション) に、本番用データベースの ODBC データ ソース名を入力します。 システムからの応答 このマップの DSN が変更されます。
4	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。

ODBC マップ オブジェクトの操作

概要：マップ オブジェクトの作成方法

はじめに

作成できるマップ オブジェクトの種類は、現在選択されている (マップ内でフォーカスのある) マップ オブジェクトによって異なります。次の表に、使用可能なオプションをまとめます (「該当なし」は、指定のオブジェクトが選択された場合、作成できるマップ オブジェクトがないことを示します)。

現在選択されているオブジェクト	作成できるマップ オブジェクト
ODBC ファイル形式	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ ▶ ステートメント レコード ▶ カーソル操作レコード (入力のみ) ▶ 入力レコード (入力のみ) ▶ 出力レコード
グループ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ ▶ ステートメント レコード ▶ カーソル操作レコード (入力のみ) ▶ 入力レコード (入力のみ) ▶ 出力レコード
ステートメント レコード (クエリー/コマンド)	該当なし
カーソル操作レコード	該当なし
入力レコード	フィールド
出力レコード	フィールド
フィールド	該当なし

(次のページへ続く)

[配下に作成] 機能と [挿入] 機能

必要なマップ オブジェクトを作成するには、Gentran:Server の 2 つの機能、[配下に作成] と [挿入] を使用します。次の表に、これらの機能を使用する場合をまとめます。

作成するマップ オブジェクト	マップ オブジェクトを右クリックし、ショートカット メニューから次のように操作します。
選択したマップ オブジェクトと同じ (等しい) レベルでのオブジェクト	<ul style="list-style-type: none">▶ [挿入] を選択します。▶ 次に、適切なオプションを選択します。
選択したマップ オブジェクトに対して従属のオブジェクト (子オブジェクト)	<ul style="list-style-type: none">▶ [配下に作成] を選択します。▶ 次に、適切なオプションを選択します。

ODBC ファイル形式の使用方法

はじめに

ODBC ファイル形式オブジェクトは、ルート エレメントなど、Gentran:Server がマッピングする ODBC データ ソースを表します。このオブジェクトは Gentran:Server により自動的に作成され、このオブジェクトを使って、ODBC データ ソース、接続パラメータ、および拡張ルールを定義できます。

メモ

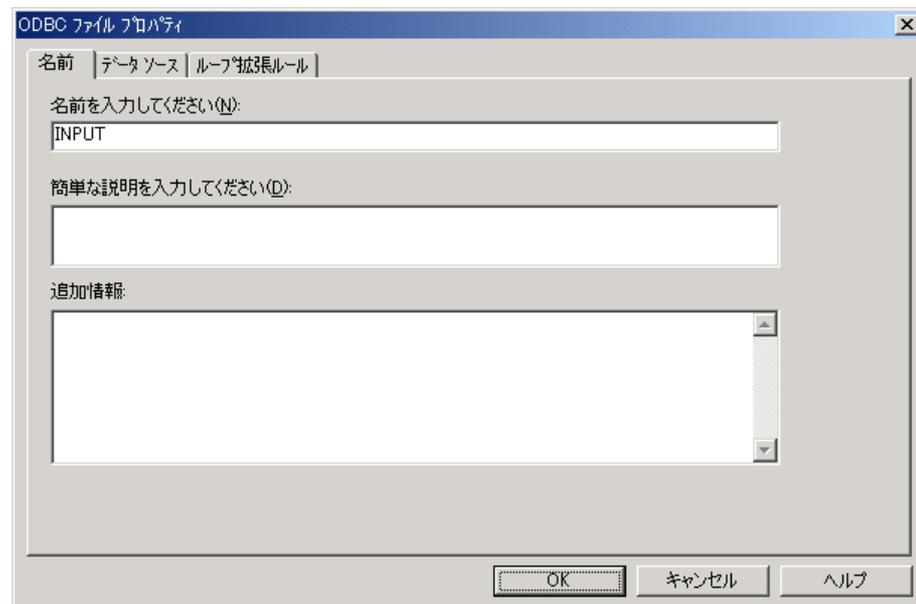
ODBC ファイル形式オブジェクトは、スタンダード ルールまたはリンクによって参照することはできません。

重要

ODBC Output Record を使用する ODBC マップで、Microsoft データベース (Access または MSSQL Server) に対してトランスレーションを実行しているマップについては、ODBC DSN 設定で [Use ANSI Quoted Identifiers] オプションをオン (有効) にする必要があります。

[ODBC ファイル プロパティ] ダイアログ ボックス

この図は、[ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) を示しています。



(次のページへ続く)

[ODBC ファイルプロパティ]の各部と機能

次の表に、[ODBC ファイルプロパティ]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	ODBC ファイルを識別します。
説明	ODBC ファイルの説明です。このボックスは、ODBC ファイルを類似のファイルから区別するために使用します。
[データソース] タブ	
現在定義されているデータソース	現在定義済みのデータソースが表示されます。
DSN	ODBC で識別されるデータソース名を指定します。 メモ 各 DSN は一意にする必要があります。
UID	必要に応じて、ユーザー ID を指定します。 メモ 接続を必要とする DSN を使用する場合には入力してください。
PWD	必要に応じて、パスワードを指定します。 メモ 接続を必要とする DSN を使用する場合には入力してください。
データベース	データベース名を指定します。
データソースの名前	データソース名を何と呼ぶかを示します。 メモ この名前は、ODBC DSN と異なる場合に入力してください。これは、適用可能なすべての [プロパティ] ダイアログボックスに伝播され、マップによって使用される DSN です。
データソースに接続し、テーブルスキーマのビルドおよび SQL ステートメントのテストを行う	このデータソースに接続し、その情報を使用してデータベース テーブル スキーマをビルドし、SQL クエリーをテストすることを示します (したがって、結果セットを生成します)。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
トランザクションの使用	トランザクションでのデータソースに対するすべての操作をトランスレータが実行することを示します。 メモ トランスレーションの際にデータベースエラーが発生した場合、データベースは、エラーのない以前の状態にロールバックされます。
ODBC データソース	データソースを作成する、または以前に作成したデータソースを選択するための [データソースの選択] ダイアログボックスを表示します。
選択されているデータソースをクリアする	別のデータソースを追加できるように、パラメータボックスをクリアします。
接続のテスト	選択した ODBC データソースの接続をテストします。
更新 / 追加	[接続のテスト] を指定した場合に、選択したデータソースのデータベーススキーマがリビルドされます。スキーマがリビルドされた後、そのスキーマに依存するファイル形式でのすべてのオブジェクトが自動的にチェックされます。可能であれば、新しいスキーマに一致するように、それらのオブジェクトのデータ型と検証情報も更新されます。その後、整合性チェックが行われ、不整合が修正されます。 メモ データソースを選択しなかった場合、または、リスト内にデータソースがない場合は、[更新] の代わりに [追加] が表示され、以前に作成したデータソースを [現在定義されているデータソース] リストに追加できます。 参照 データベースの整合性チェックの詳細については、「 データベースの整合性をチェックする方法 」を参照してください。
削除	選択したデータソースをリストから削除し、そのデータソースが参照するすべてのフィールドとレコードが無効になります (クリアされます)。 メモ 選択したデータソースを (コンピュータからではなく、リストから) 削除することの確認が求められます。削除する場合は [OK] をクリックします。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
[ループ拡張ルール] タブ	
開始時	マップ オブジェクトを処理する前に拡張ルールが実行されるように指定します。
終了時	マップ オブジェクトの処理が完了した後で拡張ルールが実行されるように指定します。
最大表示	ダイアログ ボックスを最大化します。
コンパイル	拡張ルールをコンパイルします。警告またはエラーは [エラー] リストに表示されます。 メモ この機能では、使用するルールの正確さについて直ちにフィードバックが得られます。ルールは、トランスレーション オブジェクト全体をコンパイルするときにコンパイルされます。
拡張ルール	拡張ルールを定義します。
エラー	[コンパイル] をクリックして拡張ルールをコンパイルしたときに生成されたエラーを表示します。

**ODBC ファイル形式
プロパティの変更**

ODBC ファイルのプロパティを変更するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	ODBC ファイルのアイコンを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定の表示は [名前] タブ)。
2	ODBC データ ソースを作成するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[データ ソース] タブを選択して、データソースのオプションを表示します。 参照 詳細については、「 ODBC データ ソースの作成 」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成しない場合は、ステップ 3 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>ODBC ファイルに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択し、ルールを定義して、ステップ 4 に進みます。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、ステップ 4 に進みます。
4	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[ODBC ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

ODBC データ ソースの作成

ODBC データ ソースを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>ODBC ファイルのアイコンを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定の表示は [名前] タブ)。</p>
2	<p>[データ ソース] タブを選択して、データ ソースのオプションを表示します。</p>
3	<p>[ODBC データ ソース] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [データ ソースの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>コンピュータ データ ソースを作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[コンピュータ データ ソース] タブを選択し、次のステップに進みます。 ▶ 作成しない場合は、ステップ 7 に進みます。 <p>メモ Gentran:Server は File Data Sources をサポートしていません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[コンピュータ データ ソース] タブで、使用するコンピュータ データ ソースを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [データ ソースの選択] ダイアログ ボックスが閉じ、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>ログイン情報を確認して、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [ODBC ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが再び表示されます。</p>
7	<p>[ODBC ファイル プロパティ] の [データ ソース] タブで、次の項目を入力し、ステップ 8 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [DSN] (必須) ▶ [データベース] (オプション) ▶ [パスワード] (オプション) ▶ [User defined name for this Data Source] (オプション) ▶ [追加] をクリックします。 <p>システムからの応答 データ ソースがリストに追加され、そのデータ ソースのスキーマをビルド中であるというメッセージが表示されます。</p>
8	<p>データ ソースへの接続をテストするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テストする場合は、[接続のテスト] をクリックし、ステップ 9 に進みます。 <p>メモ [接続のテスト] をクリックした場合、UPDATE を実行、またはデータベースの整合性をチェックするたびに、スキーマのリビルドが試みられ、そのデータ ソースに対して実行するすべてのクエリーがテストされます。</p> <p>システムからの応答 選択したデータ ソースの接続がテストされ、テストの結果を示すダイアログ ボックスが表示されます。[OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テストしない場合は、ステップ 9 に進みます。
9	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [ODBC ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

グループの使用法

はじめに

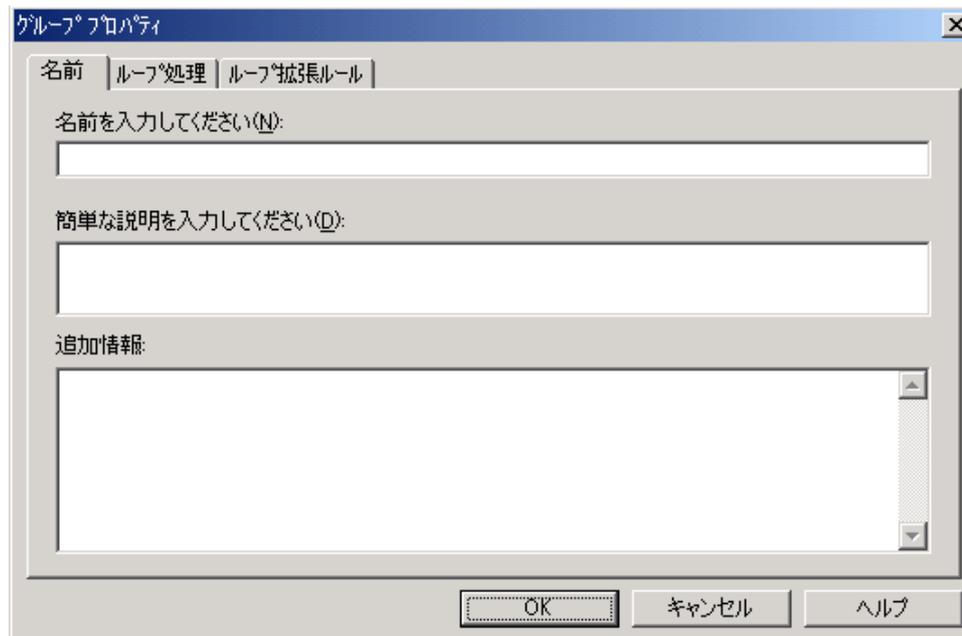
グループには、グループ データが終了するか、ループの繰り返しに許可される最大回数が終了するまで逐次繰り返される関連しているグループ、SQL ステートメント、カーソル操作、および入出力レコードが含まれます。

メモ

グループ オブジェクトは、スタンダード ルールまたはリンクによって参照することはできません。

[グループ プロパティ] ダイアログボックス

この図は、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) を示しています。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	グループ名を識別します。 メモ グループ名にはスペース、またはダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア (_) を使用します。
説明	ほかの類似グループから区別するためのグループの説明です。
[ループ処理] タブ	
最小使用回数	ループの繰り返しに必要な最小回数を指定します。条件付きループの場合、[最小使用回数]には常に "0" (ゼロ) を指定します。
最大使用回数	ループの繰り返しに許可される最大回数を指定します。
レコードを親フレームにプロモート	グループのコンパイル時に、従属のレコードとグループがグループから抽出され、親グループに配置されることを示します。この機能は、1 回反復のサブグループに対してのみ有効です。
[ループ拡張ルール] タブ	
開始時	マップ オブジェクトを処理する前に拡張ルールが実行されるように指定します。
終了時	マップ オブジェクトの処理が完了した後で拡張ルールが実行されるように指定します。
最大表示	ダイアログ ボックスを最大化します。
コンパイル	拡張ルールをコンパイルします。警告またはエラーは [エラー] リストに表示されます。
拡張ルール	拡張ルールを定義します。
エラー	[コンパイル] をクリックして拡張ルールをコンパイルしたときに生成されたエラーを表示します。

(次のページへ続く)

グループの作成

グループを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップオブジェクトを右クリックし、ショートカットメニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。</p> <p>参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「概要: マップオブジェクトの作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>ショートカットメニューから [グループ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [グループプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>[名前] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意のグループ名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	<p>[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。</p>
5	<p>[最小使用回数] ボックスに、ループの繰り返しに必要な最小回数を入力します。</p> <p>メモ 条件付きループの場合、[最小使用回数] には常に "0" (ゼロ) を指定します。必須ループの場合、[最小使用回数] には "1" 以上を指定します。</p>
6	<p>[最大使用回数] ボックスに、ループの繰り返しに許可される最大回数を入力します。</p>
7	<p>1 回反復のグループかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 1 回反復のグループの場合は、[レコードを親フレームにプロモート] を選択すると、グループのコンパイル時に、従属のレコードとグループがグループから抽出され、親グループに配置されるようになります。 ▶ 1 回反復のグループではない場合は、次のステップに進みます。
8	<p>このグループに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択します。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 エレメントが保存され、[グループプロパティ]ダイアログボックスが閉じます。</p>

ステートメントレコードの使用法

はじめに

ステートメントレコードは SQL クエリー (データが返され、そのデータを後にマップで使用できる) またはコマンドを表します。各ステートメントレコードは 1 つのデータソースに関連付けられます。そのデータソースのスキーマが既に存在する場合、参照用にすべてのテーブルが表示されます。

ステートメントレコードを使用するには、まず、データソースを選択します。選択したデータソース用にスキーマが生成済みである場合は、すべてのテーブルと表示のリストが表示されます。

次に、SQL ステートメントを入力し、その妥当性をテストした後、クエリーまたはストアードプロシージャから返された列の結果セットを生成します。この結果セットは、入力レコードの ODBC フィールドジェネレータで使用されます。その後、データソースを接続してテストすることができます。

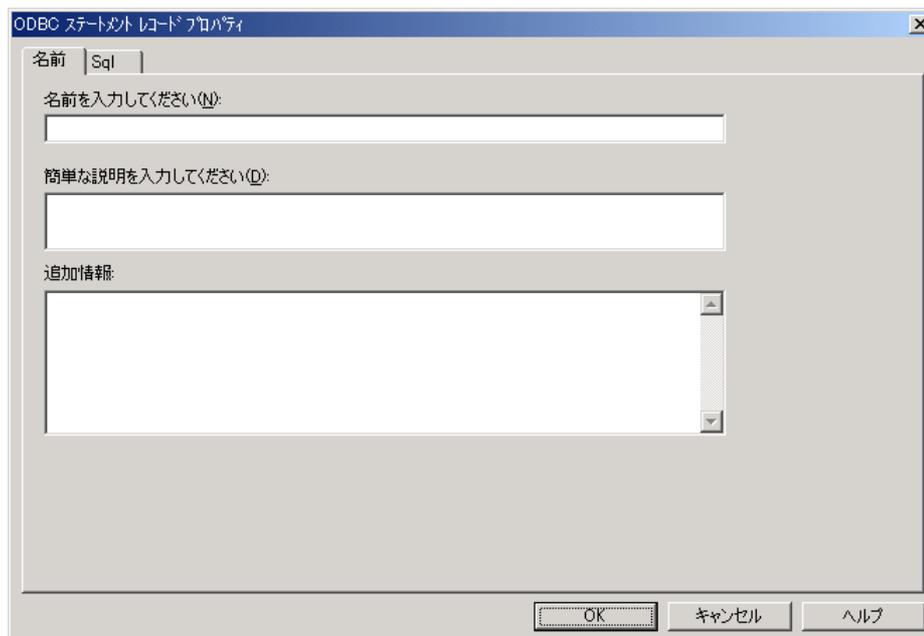
SQL ステートメントではなくストアードプロシージャの名前を指定する場合は、[ストアードプロシージャ] オプションを選択する必要があります。

メモ

ステートメントレコードは、スタンダードルール、拡張ルール、またはリンクによって参照することはできません。

[ODBC ステートメントレコードプロパティ] ダイアログボックス

この図は、[ODBC ステートメントレコードプロパティ] ダイアログボックス ([名前] タブ) を示しています。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[ODBC ステートメント レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	ステートメント レコードの名前を定義します。
説明	ステートメント レコードの説明です。
[Sql] タブ	
データ ソース	マップのこの側に関連付けられているデータ ソースのリストです。
SQL Statement	SQL を入力できます。 メモ このボックスには、C 書式のコメントも入力できます。 例 /*This is a comment*/
最大表示	[SQL Statement] リストを最大化します。
結果セットを返す	指定した SQL に対する結果セットを生成し、返すことを示します。
SQL ステートメントはストアードプロシージャ	[SQL Statement] リスト内のエントリがクエリーやコマンドではなく、ストアードプロシージャであることを示します。
SQL のテスト	[SQL Statement] リスト内のステートメントをテストします。
テーブル	選択したデータ ソースに関連付けられたデータベース テーブルと表示のリストです。
列情報	選択したデータベース テーブルからの列情報です。 メモ 表示されるデータ型は、実際のデータ型ではなく、その列の Gentran:Server データ型です。

(次のページへ続く)

ステートメント
レコードの作成

ステートメント レコードを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップ オブジェクトを右クリックし、ショートカット メニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。</p> <p>参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「概要: マップ オブジェクトの作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>ショートカット メニューから [クエリー]>[コマンド] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC ステートメント レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[名前] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意のステートメント レコード名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	[Sql] タブを選択して、ステートメントのオプションを表示します。
5	[データ ソース] リストから、このステートメントに使用するデータ ソースを選択します。
6	[SQL Statement] リストで、SQL ステートメントまたはストアド プロシージャを入力します。
7	<p>ステートメントをテストするときに、結果セットが返されるようにするかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 返されるようにする場合は、[結果セットを返す] オプションを選択し、ステップ 9 に進みます。 ▶ 返されるようにしない場合は、ステップ 10 に進みます。
8	<p>ステートメントがストアド プロシージャかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ストアド プロシージャの場合は、[SQL ステートメントはストアド プロシージャ] オプションを選択し、次へのステップに進みます。 ▶ ストアド プロシージャではない場合は、次のステップに進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>[SQL のテスト] をクリックします。</p> <p>メモ この機能は、[ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックス ([データ ソース] タブ) で [接続のテスト] を選択した場合にのみ有効です。</p> <p>参照 詳細については、「ODBC ファイル形式の使用法」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 ステートメントがテストされ、(結果セットを返すように指定した場合は) 結果セットが返されます。</p>
10	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 ステートメント レコードが保存され、[ODBC ステートメント レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

カーソル操作レコードの使用方法

はじめに

カーソル操作レコードには、結果セット内の新しいレコードに移動する際のトランスレータへの指示が含まれます。各カーソル操作レコードは1つの ODBC ステートメント レコードに関連付けられます。

メモ

カーソル操作レコードはマップの入力側でのみ許可されます。

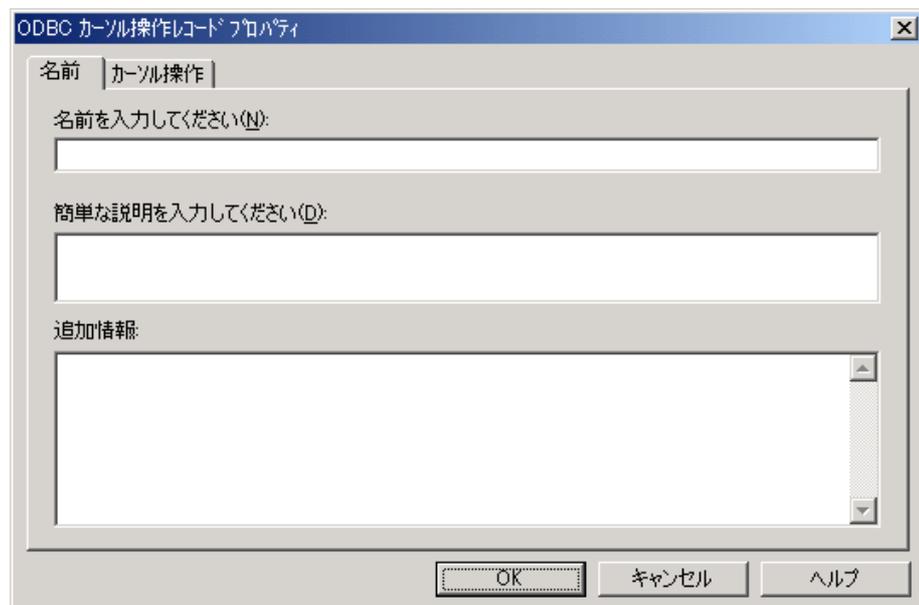
マップを処理する際にトランスレータがカーソル操作レコードに遭遇すると、カーソル操作が行われます。

メモ

カーソル操作レコードは、スタンダード ルール、拡張ルール、またはリンクによって参照することはできません。

[ODBC カーソル 操作レコード プロパティ] ダイアログ ボックス

この図は、[ODBC カーソル操作レコード プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) を示しています。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[ODBC カーソル操作レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	カーソル操作レコードの名前を定義します。
説明	カーソル操作レコードの説明です。
[カーソル操作] タブ	
照会レコード関連	<p>カーソル操作を関連付ける "クエリー" 型のステートメントレコードです。</p> <p>メモ ステートメントレコードは結果セットを返す必要があります。</p>
カーソル操作	<p>トランスレータが結果セットに対して行う操作です。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [No Op] — 何も操作を実行しません。実際にオブジェクトを削除せずに、カーソル操作の削除の効果をテストできます。 ◆ [Move First] — 選択した Associated Query によって返された結果セットの最初の行にカーソルを移動します。 ◆ [Move Next] — 選択した Associated Query によって返された結果セットの次の行にカーソルを移動します。 ◆ [Move Last] — 選択した Associated Query によって返された結果セットの最後の行にカーソルを移動します。 ◆ [Move Previous] — 選択した Associated Query によって返された結果セットの前の行にカーソルを移動します。 ◆ [閉じる] — 選択した Associated Query 用に開いているカーソルを閉じます。

(次のページへ続く)

カーソル操作レコードの作成

カーソル操作レコードを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップオブジェクトを右クリックし、ショートカットメニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。</p> <p>参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「概要: マップオブジェクトの作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>ショートカットメニューから [カーソル操作] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC カーソル操作レコード プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>[名前] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意のカーソル操作レコード名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	[カーソル操作] タブを選択して、操作のオプションを表示します。
5	[照会レコード関連] リストから、結果セットを取得するために使用され、その後レコードに移動するクエリーを選択します。
6	[カーソル操作] リストから、カーソル操作を選択します。
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 カーソル操作レコードが保存され、[ODBC カーソル操作レコード プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。</p>

入力レコードの使用方法

はじめに

入力レコードには、出力形式にマップするための適切なフィールドの論理グループが含まれます。

例

マップの入力側が ODBC で、出力ファイル形式が固定長であり、2つの異なるクエリーからの情報を使用してレコードを生成する必要があるとします。この場合、両クエリーの適切な列からのデータを取得するフィールドが含まれる ODBC 入力レコードを作成できます。次に、それらのフィールドを対応する固定長フィールドに直接リンクします。

メモ

入力レコードは、スタンダード ルールまたはリンクによって参照することはできません。

キー フィールド機能

入力レコードは、スタンダードの Gentran:Server キー フィールド定数およびコードリスト機能をサポートします。さらに、マップで先に出現するフィールドに一致するかチェックすることもできます。先にマップされたフィールドに一致するかチェックする場合は、最大 3 つのキー フィールドを使用できます。

この追加のキー フィールド機能は、マスタと詳細レコードの結合から等価の階層へとマップしている場合に特に有用です。これにより、詳細レベル内のキーがマスタレベル内のキーと一致しなくなるときをトランスレータが検出できるからです。

次のカーソル操作の自動取得

入力レコードのフィールドがすべて同じクエリーに属する場合は、入力レコードを繰り返す際に次のカーソル操作の自動取得が自動的に行われるように指定できます。

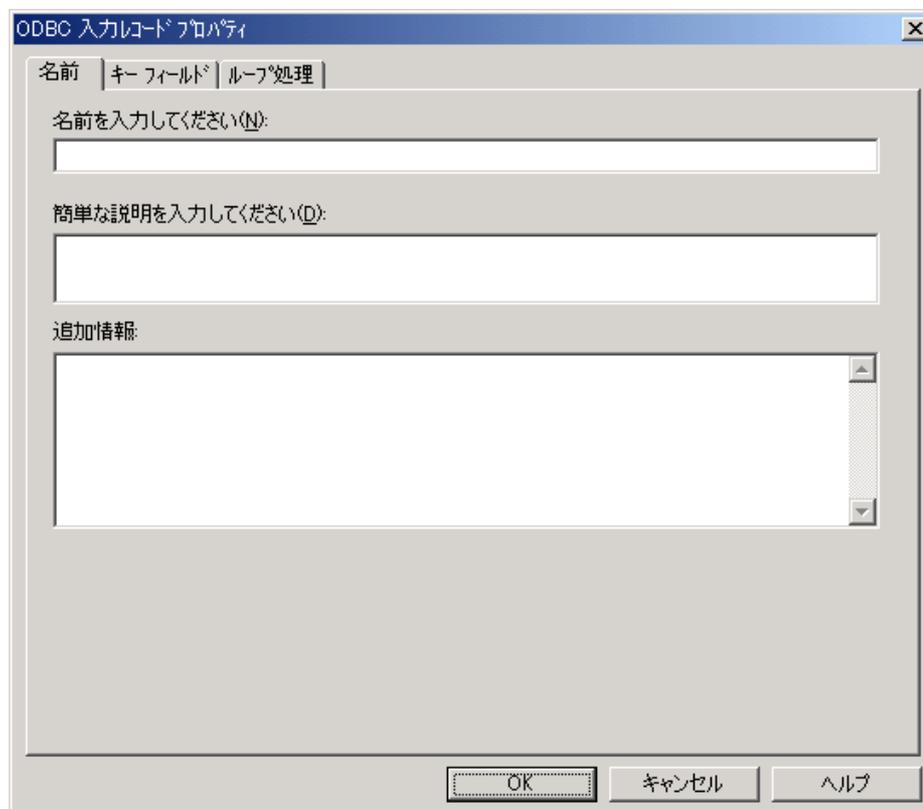
メモ

[ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの [ループ処理] タブで、[ステートメント レコードから次の行を自動的に取得する] オプションを指定します。

(次のページへ続く)

[ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックス

この図は、[ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) を示しています。



各部と機能

次の表に、[ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	入力レコードの名前を定義します。 メモ この名前にはスペース、またはダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア (_) を使用します。
説明	ほかの類似レコードから区別するための入力レコードの説明です。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
[キー フィールド] タブ	
なし 定数を使用 コード リスト を使用 フィールドを使用	このレコードを一致させるために使用する情報の種類を示します。 メモ [定数を使用] または [コード リストを使用] を選択すると、ダイアログ ボックスの中央部がアクティブになります。[フィールドを使用] を選択すると、ダイアログ ボックスの下部がアクティブになります。
キーが一致しない場合、レコードを一致させる	指定された値が [キー フィールド] にない場合に、レコードを一致させることを示します (選択した場合)。 メモ これにより、あいまいなレコード定義の認識度が高まります。
キー フィールド	指定した定数、コード リスト、またはフィールド値に一致するかどうかを確認するフィールドです。
定数 編集	定義済み定数のリストです。選択した定数がキーフィールドに一致するかチェックされます。 定数を追加または変更するには、[編集] をクリックして [トランスレーション オブジェクトの定数] ダイアログを表示します。
コード リスト 編集	定義済みコード リストのリストです。選択したコードリストがキーフィールドに一致するかチェックされます。 コード リストを追加または変更するには、[編集] をクリックして [コード リスト] ダイアログを表示します。
キー フィールド 1	第 1 キー フィールドを指定します。 メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。
Use Key Field 1	この値が使用されるように指定します。 メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外)。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
キー フィールド 2	必要に応じて、第 2 キー フィールドを指定します。 メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。
Use Key Field 2	この値が使用されるように指定します。 メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外) 。
キー フィールド 3	必要に応じて、第 3 キー フィールドを指定します。 メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。
Use Key Field 3	この値が使用されるように指定します。 メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外) 。
[ループ処理] タブ	
最小使用回数	ループの繰り返しに必要な最小回数を指定します。 メモ [最小使用回数] ボックスの値が "0" (ゼロ) の場合、レコードは " 条件付き " です。[最小使用回数] ボックスの値が "1" 以上の場合、レコードは " 必須 " です。
最大使用回数	ループの繰り返しに許可される最大回数を指定します。
正常 ループ開始 ループ終了	ループの種類を示します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [正常] (このレコードはループ内にあるが、先頭または末尾のレコードではない) ▶ [ループ開始] (このレコードはループの先頭を示す) ▶ [ループ終了] (このレコードはループの末尾を示す)
ステートメントレコードから次の行を自動的に取得する	入力レコードのループ中に、移動操作が実行されることを示します。
[ループ拡張ルール] タブ (レコードを繰り返す場合のみ)	
開始時	レコードを処理する前に拡張ルールが実行されるように指定します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
終了時	レコードの処理が完了した後で拡張ルールが実行されるように指定します。
最大表示	ダイアログ ボックスを最大化します。
コンパイル	拡張ルールをコンパイルします。警告またはエラーは [エラー] リストに表示されます。 メモ この機能では、使用するルールの正確さについて直ちにフィードバックが得られます。ルールは、トランスレーション オブジェクト全体をコンパイルするときにコンパイルされます。
拡張ルール	拡張ルールを定義します。
エラー	[コンパイル] をクリックして拡張ルールをコンパイルしたときに生成されたエラーを表示します。

入力レコードの作成

入力レコードを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	マップ オブジェクトを右クリックし、ショートカット メニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。 参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「 概要: マップ オブジェクトの作成方法 」を参照してください。
2	ショートカット メニューから [入力レコード] を選択します。 システムからの応答 [ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] タブで、次の項目を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意の入力レコード名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	[キーフィールド] タブを選択して、キー フィールドのオプションを表示します。
5	キー フィールドを定義する適切なオプションを選択し、次のステップに進みます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	[ループ処理] タブを選択して、回数のオプションを表示します。
7	[最大使用回数] ボックスに、レコードの繰り返し (ループ) に許可される最大回数を入力します。
8	<p>ステートメント レコード順序 / 結合から次の行を自動的に取得するように指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、そのオプションを選択し、次のステップに進みます。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
9	<p>レコードを繰り返す (ループする) ように指定したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定した場合は、次のステップに進みます。 ▶ 指定しなかった場合は、ステップ 11 に進みます。
10	<p>この入力レコードに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択し、ルールを定義して、次のステップに進みます。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
11	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 入力レコードが保存され、[ODBC 入力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

出力レコードの使用法

はじめに

出力レコードは UPDATE、INSERT、または DELETE の SQL ステートメントを表し、出力レコードにはデータベース出力フィールドが含まれます。ユーザーは、変更するテーブルの名前と、INSERT、UPDATE、DELETE のいずれであるかを指定します。

出力レコードに含まれるフィールドは、更新または挿入される列と、影響を受ける行へのキーを表します。出力レコードはマップの入力側と出力側の両方で作成可能です。

メモ

出力レコードは、スタンダード ルールまたはリンクによって参照することはできません。

重要

ODBC Output Record を使用する ODBC マップで、Microsoft データベース (Access または MSSQL Server) に対してトランスレーションを実行しているマップについては、ODBC DSN 設定で [Use ANSI Quoted Identifiers] オプションをオン (有効) にする必要があります。

キー フィールド 機能

出力レコードは、スタンダードの Gentran:Server キー フィールド定数およびコード リスト機能をサポートします。さらに、マップで先に出現するフィールドに一致するかチェックすることもできます。先にマップされたフィールドに一致するかチェックする場合は、最大 3 つのキー フィールドを使用できます。

この追加のキー フィールド機能は、マスタと詳細レコードの結合から等価の階層へとマップしている場合に特に有用です。これにより、詳細レベル内のキーがマスタ レベル内のキーと一致しなくなるときをトランスレータが検出できるからです。

次のカーソル操作の 自動取得

出力レコードのフィールドがすべて同じクエリーに属する場合は、出力レコードを繰り返す際に次のカーソル操作の自動取得が自動的に行われるように指定できます。

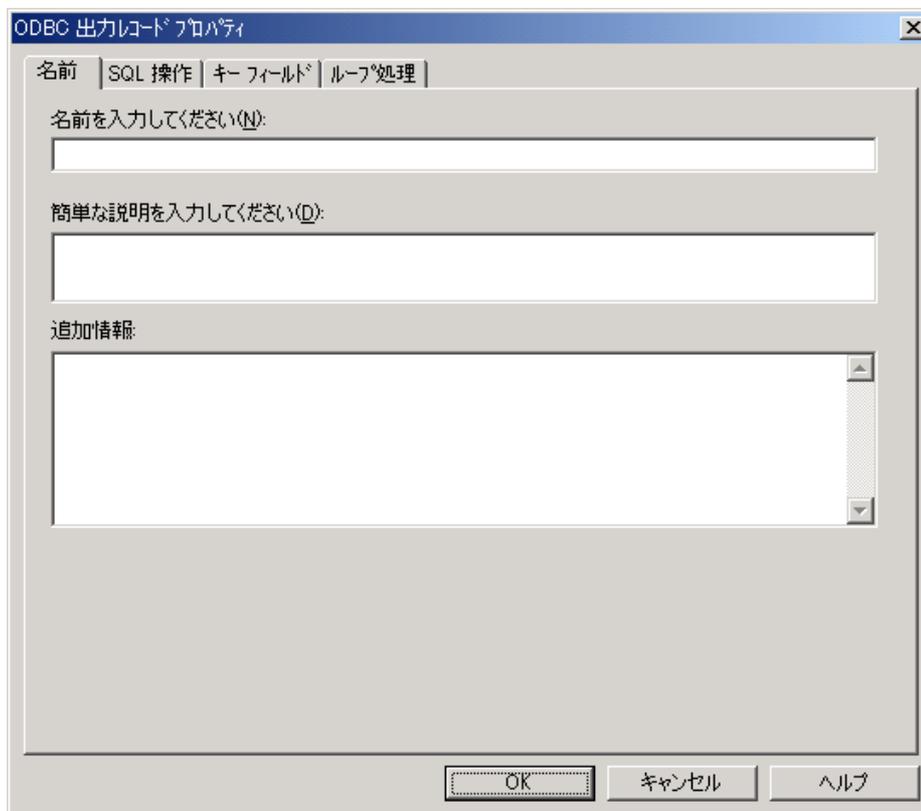
メモ

[ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの [ループ処理] タブで、[ステートメント レコードから次の行を自動的に取得する] オプションを指定します。

(次のページへ続く)

[ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログ ボックス

この図は、[ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) を示しています。



各部と機能

次の表に、[ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	出力レコードの名前を定義します。 メモ この名前にはスペース、またはダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア (_) を使用します。
説明	ほかの類似レコードから区別するための出力レコードの説明です。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
[SQL 操作] タブ	
データ ソース	関連付けられたデータ ソースの説明です。
テーブル	選択したデータ ソースのデータベース テーブルのリストです。
挿入 更新 削除	テーブルに対して実行する操作を示します。
失敗時、選択された操作を自動的に切り替え、Update として Insert または Insert として Updates を再試行する。	<p>操作に失敗した場合、ほかの操作 (更新から挿入、または挿入から更新) に自動的に切り替え、操作を再試行することを示します (選択した場合)。</p> <p>メモ [削除] オプションを選択した場合、このチェックボックスは削除操作に適用されないため、非アクティブになります。</p> <p>警告 以前のバージョンの Gentran:Server からアップグレードし、再試行機能を使用している場合は、ODBC マップを更新するために、マップ内のすべての出力レコードについてこのチェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[キー フィールド] タブ	
なし 定数を使用 コード リストを使用 フィールドを使用	<p>このレコードの一致をチェックするために使用される情報の種類を指定します。</p> <p>メモ [定数を使用] または [コード リストを使用] を選択すると、ダイアログ ボックスの中央部がアクティブになります。[フィールドを使用] を選択すると、ダイアログ ボックスの下部がアクティブになります。</p>
キーが一致しない場合、レコードを一致させる	<p>指定された値が [キー フィールド] にない場合に、レコードを一致させることを示します (選択した場合)。</p> <p>メモ これにより、あいまいなレコード定義の認識度が高まります。</p>
キー フィールド	<p>指定した定数、コード リスト、またはフィールド値に一致するかどうかを確認するフィールドです。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
定数 編集	<p>定義済み定数のリストです。選択した定数がキーフィールドに一致するかチェックされます。</p> <p>定数を追加または変更するには、[編集] をクリックして [トランスレーション オブジェクトの定数] ダイアログを表示します。</p>
コード リスト 編集	<p>定義済みコード リストのリストです。選択したコードリストがキーフィールドに一致するかチェックされます。</p> <p>コード リストを追加または変更するには、[編集] をクリックして [コード リスト] ダイアログを表示します。</p>
キー フィールド 1	<p>第 1 キー フィールドを指定します。</p> <p>メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。</p>
Use Key Field 1	<p>この値が使用されるように指定します。</p> <p>メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外) 。</p>
キー フィールド 2	<p>必要に応じて、第 2 キー フィールドを指定します。</p> <p>メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。</p>
Use Key Field 2	<p>この値が使用されるように指定します。</p> <p>メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外) 。</p>
キー フィールド 3	<p>必要に応じて、第 3 キー フィールドを指定します。</p> <p>メモ このレコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます。</p>
Use Key Field 3	<p>この値が使用されるように指定します。</p> <p>メモ 先行レコードからのすべてのアクティブなフィールドが含まれます (このレコード以外) 。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
[ループ処理] タブ	
最小使用回数	ループの繰り返しに必要な最小回数を指定します。 メモ [最小使用回数] ボックスの値が "0" (ゼロ) の場合、レコードは " 条件付き " です。[最小使用回数] ボックスの値が "1" 以上の場合、レコードは " 必須 " です。
最大使用回数	ループの繰り返しに許可される最大回数を指定します。
正常 ループ開始 ループ終了	ループの種類を示します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [正常] (このレコードはループ内にあるが、先頭または末尾のレコードではない) ▶ [ループ開始] (このレコードはループの先頭を示す) ▶ [ループ終了] (このレコードはループの末尾を示す)
ステートメントレコードから次の行を自動的に取得する	出力レコードのループ中に、移動操作が実行されることを示します。
[ループ拡張ルール] タブ (レコードを繰り返す場合のみ)	
開始時	レコードを処理する前に拡張ルールが実行されるように指定します。
終了時	レコードの処理が完了した後で拡張ルールが実行されるように指定します。
最大表示	ダイアログ ボックスを最大化します。
コンパイル	拡張ルールをコンパイルします。警告またはエラーは [エラー] リストに表示されます。 メモ この機能では、使用するルールの正確さについて直ちにフィードバックが得られません。ルールは、トランスレーション オブジェクト全体をコンパイルするときにコンパイルされます。
拡張ルール	拡張ルールを定義します。
エラー	[コンパイル] をクリックして拡張ルールをコンパイルしたときに生成されたエラーを表示します。

(次のページへ続く)

出力レコードの作成

出力レコードを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップオブジェクトを右クリックし、ショートカットメニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。</p> <p>参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「概要: マップオブジェクトの作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>ショートカットメニューから [出力レコード] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>[名前] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意の出力レコード名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	[SQL 操作] タブを選択して、出力のオプションを表示します。
5	[データソース] リストから、適切なデータソースを選択し、次のステップに進みます。
6	[テーブル] リストから、変更するデータソースを選択し、次のステップに進みます。
7	適切なテーブル操作を選択し、次のステップに進みます。
8	<p>指定した操作を (挿入から更新に、または更新から挿入に) 自動的に切り替えて、操作を再試行するように指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェックボックスをオンにし、次のステップに進みます。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
9	[キーフィールド] タブを選択して、キーフィールドのオプションを表示します。
10	キーフィールドを定義する適切なオプションを選択し、次のステップに進みます。
11	[ループ処理] タブを選択して、回数のオプションを表示します。
12	<p>[最大使用回数] ボックスに、レコードの繰り返し (ループ) に許可される最大回数を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
13	<p>レコードを繰り返す (ループする) ように指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定する場合は、次のステップに進みます。▶ 指定しない場合は、ステップ 15 に進みます。
14	<p>この出力レコードに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択し、ルールを定義して、次のステップに進みます。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
15	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 出力レコードが保存され、[ODBC 出力レコード プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

フィールドの使用方法

はじめに

フィールドは、入力レコードと出力レコードのどちらに含まれているかによって動作が異なります。

メモ

フィールドはクエリーに関連付ける必要はありません。

スキーマまたは結果セット情報を以前に生成した場合は、フィールドの種類が自動的に選択されます。スキーマまたは結果セット情報を生成しなかった場合は、フィールドの種類を手動で指定する必要があります。

メモ

実行する操作が指定されているフィールドの場合 (リンク、スタンダードルール、または、拡張ルール格納フィールドとして)、そのフィールドアイコンの上に赤のチェックマークが表示されます。

入力レコードのフィールド

フィールドが入力レコード内にある場合、フィールドは、クエリーの結果セットの現在行にある列からデータを受け取ります。ユーザーが、クエリーから返される列にフィールドを関連付けます。

メモ

選択したクエリーをテストしない場合、列名は使用できません。代わりに、列番号を選択してください。

出力レコードのフィールド (マップの出力側)

フィールドがマップ出力側の出力レコード内にある場合、フィールドは、システムによって更新または挿入される列、あるいはキー列を表します。ユーザーが列の名前を指定し、それがキーであるかどうか指定します。キー列は、UPDATE ステートメントと DELETE ステートメントの WHERE 句を作成するために自動的に使用されます。

メモ

フィールドが出力レコード内にある場合、検証情報はマップ先の列から設定されます。

出力レコードのフィールド (マップの入力側)

フィールドがマップ入力側の出力レコード内にある場合、列の入力元とターゲット テーブルでの列データの出力先の両方を指定できます。

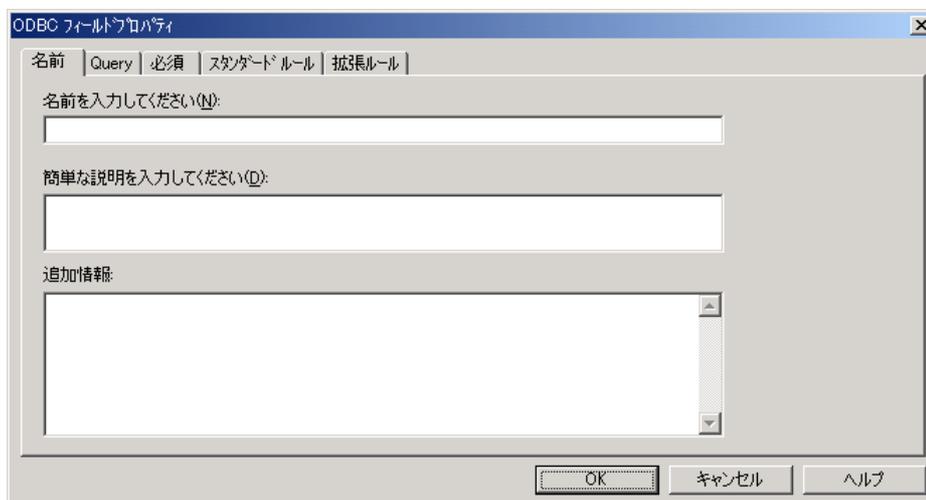
メモ

フィールドが出力レコード内にある場合、検証情報は列情報から設定されます。

(次のページへ続く)

**[フィールド
プロパティ]
ダイアログボックス**

この図は、マップの入力側の場合に表示される [フィールド プロパティ] ダイアログボックス ([名前] タブ) を示しています。



各部と機能

次の表に、[フィールド プロパティ] ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
[名前] タブ	
名前	フィールドの名前を定義します。 メモ この名前にはスペース、またはダッシュ (-) を使用できません。語の区切りには、アンダースコア (_) を使用します。
説明	ほかの類似フィールドから区別するためのフィールドの説明です。
[Query] タブ (入力レコード内のフィールドの場合のみ表示される)	
関連付けられたステートメントレコード	ステートメントレコードのリストです。
照会 SQL	現在選択されているステートメントレコードの SQL が表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
名前	<p>現在選択されているステートメント レコードの結果セットにある列名のリストです。</p> <p>メモ データベースに接続するように指定し、SQL をテストした場合にのみ適用されます。</p>
番号	<p>現在選択されているステートメント レコードの結果セットにある列番号のリストです。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データベースに接続するように指定し、SQL をテストした場合にのみ適用されます。 ▶ このリストには、1 ベースのインデックスが使用されます。
NULL を許可	<p>[名前] リストから選択した列に NULL が許可されるかどうかを示します。</p> <p>メモ 情報提供のみが目的です。</p>
クリア	このフィールドをクエリーとの関連付けから解除します。
[列] タブ (出力レコード内のフィールドの場合のみ表示される)	
名前	親出力レコードに関連付けられているテーブル内の列名のリストです。
番号	親出力レコードに関連付けられているテーブル内の列番号のリストです。
NULL を許可	[名前] 列から選択された列に対し、INSERT および UPDATE SQL ステートメント操作の際に、ブランクフィールドを NULL で充填するかどうかを示します。
テーブル キー	<p>このフィールドが WHERE 句で使用されることを示します。</p> <p>メモ UPDATE または DELETE に使用されている WHERE 句を形成できるようになります (INSERT 操作には適用されません)。</p>
クリア	このフィールドをクエリーとの関連付けから解除します。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
[必須] タブ	
必須	フィールドが必須かどうかを示します (指定が必要です) 。
最小長	フィールドの最小の長さを指定します。
最大長	フィールドの最大の長さを指定します。
Data-type	<p>データ型を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [文字列] (英数字エレメント) ▶ [番号] (数字または実数エレメント) ▶ [日 / 時] (日付または時刻エレメント)
書式	<p>フィールドを書式化する方法を指定します。</p> <p>メモ [Data-type] に選択した値に応じて、データ形式をリストから選択するか ([Data-type] フィールドに [番号] または [日 / 時] を選択した場合)、または、指定したシンタックストークンで示されるとおりにこのフィールドを書式化するように指示するシンタックストークンを入力することができます。</p> <p>Gentran:Server のインストール時に、ユーザーが文字列フィールドに既定書式を割り当てます。この書式は、文字検証の基準として使用されます。U.S. ユーザーは通常、ASCII 文字に対応する既定書式 (たとえば、X シンタックストークン) を使用できます。アジアまたはヨーロッパ言語、およびエンコード文字セットのユーザーは通常、フリー書式 (0x01-0xFF) を使用できます。</p>
[スタンダード ルール] タブ	
スタンダード ルール	<p>処理中にこのフィールドまたはエレメントに影響するスタンダード ルールを指定します。各ルールは相互に排他的です。</p> <p>参照 スタンダード ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
[拡張ルール] タブ	
最大表示	<p>ダイアログ ボックスを最大化します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
コンパイル	<p>拡張ルールをコンパイルします。警告またはエラーは [エラー] リストに表示されます。</p> <p>メモ この機能では、使用するルールの正確さについて直ちにフィードバックが得られます。ルールは、トランスレーション オブジェクト全体をコンパイルするときにコンパイルされます。</p>
拡張ルール	拡張ルールを定義します。
エラー	[コンパイル] をクリックして拡張ルールをコンパイルしたときに生成されたエラーを表示します。

フィールドの作成

フィールドを作成するには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップオブジェクトを右クリックし、ショートカット メニューから [配下に作成] または [挿入] を選択します。</p> <p>参照 [配下に作成] 機能と [挿入] 機能の詳細については、「概要: マップオブジェクトの作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>ショートカット メニューから [フィールド] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[名前] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意のフィールド名 ▶ 説明 (該当する場合)
4	<p>マップの入力側のフィールドかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マップの入力側のフィールドの場合は、[Query] タブを選択し、次のステップに進みます。 ▶ マップの入力側のフィールドではない場合 (出力側のフィールドである場合) は、[列] タブを選択し、ステップ 8 に進みます。
5	<p>[関連付けられたステートメント レコード] リストから、このフィールドを関連付けるレコードを選択し、次のステップに進みます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[名前] リストから、テーブル名を選択し、次のステップに進みます。</p> <p>メモ [名前] リストを使用できない場合は、SQL クエリーをテストしなかったことを意味します。代わりに、[番号] ボックスから番号を選択してください。</p>
7	<p>NULL を許可するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 許可する場合は、[NULL を許可] オプションを選択し、ステップ 11 に進みます。 ▶ 許可しない場合は、ステップ 11 に進みます。
8	<p>[列] タブで、[名前] リストから列名を選択します。</p> <p>メモ [名前] リストを使用できない場合は、[ODBC ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスで、データ ソースに接続してテーブルをビルドするように選択しなかったことを意味します。代わりに、[番号] ボックスから番号を選択してください。</p>
9	<p>NULL を許可するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 許可する場合は、[NULL を許可] オプションを選択し、次のステップに進みます。 ▶ 許可しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ このオプションは出力レコードのフィールドにのみ適用されます。</p>
10	<p>このフィールドを WHERE 句で使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[テーブルキー] オプションを選択し、次のステップに進みます。 ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
11	<p>[必須] タブで、次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィールドが必須であるかどうか ▶ 最小の長さ ▶ 最大の長さ ▶ データ型 ▶ データを書式化する方法 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
12	<p>このフィールドにスタンダード ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">指定する場合は、[スタンダード ルール] タブを選択し、ルールを定義して、次のステップに進みます。 <p>参照 スタンダード ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">指定しない場合は、次のステップに進みます。
13	<p>このフィールドに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">指定する場合は、[拡張ルール] タブを選択し、ルールを定義して、次のステップに進みます。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">指定しない場合は、次のステップに進みます。
14	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 フィールドが保存され、[フィールド プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。</p>

データベースの整合性チェック

データベースの整合性をチェックする方法

はじめに

[データベースの整合性の確認]機能は、各クエリー、出力レコード、およびフィールドの定義を、関連付けられたデータソースと比較し、不整合があった場合にそのリストを返します。この機能はデータベース内の不整合について警告しますが、マップのコンポーネントは修正しません。

メモ

データソースを ([ODBC ファイルプロパティ]ダイアログボックスの [データソース]タブで)更新するとき、および、マップをコンパイルする際の最初の操作としてもデータベースの整合性がチェックされます。

例

不整合は、データソースから返されたものではないクエリー列から、フィールド用にデータを抽出することを試みた場合に発生します。

データベースの整合性のチェック

データベースの整合性をチェックするには、この手順に従います。

ステップ	操作
1	ODBC ファイル形式オブジェクトを右クリックし、ショートカットメニューから [データベースの整合性の確認] を選択します。 システムからの応答 マップの選択した側の整合性が確認され、検出された不整合を示す [データベースの整合性の確認] ダイアログが表示されます。
2	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [データベースの整合性の確認] ダイアログボックスが閉じます。

ODBC マップ作成のガイドライン

目次

▶ はじめに	2
▶ テスト環境から本番環境へ移行する際のヒント	3
▶ インバウンド マッピングのヒント	4
▶ アウトバウンド マッピングのヒント	5

はじめに

この付録の内容

この付録では、ODBC マップの問題のトラブルシューティングに関する情報を提供します。

カスタマ サポート へ連絡する際に 必要な情報

問題が解決しない場合は、カスタマ サポートへ連絡する前に次の情報を用意してください。

- ▶ マップしているデータベースの名前
 - ▶ MDAC バージョン
 - ▶ 適用されるサービス パックも含めたデータベースのバージョン
 - ▶ 列、キー、およびインデックス情報を含むテーブル スクリプト
 - ▶ マップ
 - ▶ データ ファイル
 - ▶ パートナー プロファイル
 - ▶ 表示されたとおりのエラー メッセージ
 - ▶ 使用している GENSRVNT\Bin フォルダにある MAPPER.EXE および TX32.EXE ファイルの日付 / 時刻スタンプ
 - ▶ マップの正しい動作についての説明
-

テスト環境から本番環境へ移行する際のヒント

チェックリスト

テスト環境から本番環境へ移行する際、次の項目が開発 (テスト) 用コントローラと本番用サーバーの両方で同一であることを確認する必要があります。

- ▶ MDAC バージョン
- ▶ データベース名 (本番用コントローラでのデータソース名が異なる場合は、マップ内でその名前を変更する必要があります)
- ▶ データソース名 (本番用コントローラでのデータベース名が異なる場合は、マップの [ODBC ファイルプロパティ] ダイアログボックスでその名前を変更する必要があります)

参照

マップの DSN を変更する方法の詳細については、「[ODBC ファイル形式の使用法](#)」を参照してください。

インバウンド マッピングのヒント

はじめに

インバウンド マップは、入力側では任意の形式、出力側では ODBC 形式を使用できます。

一般ガイドライン

次のリストは、インバウンド マッピングの一般的なガイドラインです。

- ▶ INSERT/UPDATE 操作は、エクスポート処理が行われるまでデータベースに対して実行されません。
- ▶ エクスポート処理でエラーが発生した場合は、Gentran:Server メイン ウィンドウからアクセスできる [外部データ] ブラウザの [Export Summary] トランスレータ レポートにそのエラーが表示されます。
- ▶ マップがデータベースに書き込まない理由を判別できない場合は、(処理ファイルではなく) エクスポート処理のみに対して (ODBC トレースではなく) データベース トレースを実行してください。
- ▶ データベース トレース ファイルは、Gentran:Server によってマップから構築されたすべての SQL ステートメントを提供し、ロールバックも提供します。さらに詳細が必要な場合は、クエリー アナライザを使って SQL ステートメントを実行してください。

アウトバウンド マッピングのヒント

はじめに

アウトバウンド マップは、入力側では ODBC 形式を使用し、出力側では任意の形式を使用できます。

無限ループのトラブルシューティング

マップが無限ループを実行している場合は、次の項目を確認してください。

- ▶ (マップ内の) SQL ステートメントレコードが、テーブルの列にある特定の値をチェックしているかどうかを調べます。

参照

SQL ステートメントレコードの使用法の詳細については、「[ステートメントレコードの使用法](#)」を参照してください。

- ▶ インポート マップ内に更新レコードを含めたことを確認します。
- ▶ その更新レコードに、更新しているテーブルのキー列が含まれていることを確認します。

